

第8回 オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム

東京都立 杉並工業高等学校 開催報告

vol.08
2021.8

開催日 2021年7月15日（木）

第8回となる「オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム」を、2021年7月15日(木)に東京都立 杉並工業高等学校にて、高校2年生110名を対象に開催いたしました。

当日は、午前中の授業時間を利用して、義肢装具士による「障がいの理解と義肢装具士の仕事」、「進路プレゼンテーション」の講義と、義足ユーザで日本障がい者立位テニス選手の岸 俊介氏に、講演と日常動作&立位テニスパフォーマンスを、また休憩時間帯には、実際に接触可能な義肢装具を展示しました。

今回のプログラムは、講師にゲイトアシスト合同会社 代表の富永 修一氏(PO)をお招きし、(公社)日本義肢装具士協会 障がい者/パラアスリート/PO啓発WGと、東日本支部から運営スタッフ2名が対応しました。それぞれのプログラムについて解説いたします。

なお、開催時期は新型コロナウイルス感染拡大中に伴い、学校から指示される感染予防対策の方法を厳守し、当協会においても関係者の「健康チェックシートの記録」・「検温」・「手指の消毒」・「マスク、フェイスシールドの装着」や、生徒と距離を保つなど感染予防対策を徹底いたしました。

講義 ～障がいの理解と義肢装具士の仕事～

最初に富永氏による講義、「障がいの理解と義肢装具士の仕事」を行いました。

前半では、障がいについての概要、義肢装具の説明や義肢装具士の仕事に関して多くの写真を用いて細かく説明し、後半はパラリンピックやパラアスリートと義肢装具士の関わりについて、質問形式のスライドや陸上パラアスリートの動画をスライドに盛り込み、多くの関心を引き出すことが出来ました。



< 講義の様子 >

進路プレゼンテーション

プログラムの最後に、講師による「義肢装具士 進路プレゼンテーション」を行いました。進路を考える時期である高校2年生に、「義肢装具士になるために必要な事」や「実際の業務内容、義肢装具業界の現状と将来性」など、将来の職業選択の一つとして義肢装具士を紹介する事が出来ました。

義足ユーザーによる講演 & デモンストレーション

「義足ユーザーによる講演 & 立位テニスのパフォーマンス」を行いました。岸選手(大腿義足ユーザー)による講演は、「自己紹介」・「障がいのある人の心理」・「ダイバーシティとは」・「立位障がい者テニス」に関して行っていただきました。障がいについては、当事者にしか伝えることが出来ない体験談を基に、分かり易い言葉で丁寧に、時には英単語やユーモアを交えながら説明されていました。

講演後の立位テニスのパフォーマンスでは、体育館中央部を空けてテニス部の顧問とのボレーの打ち合い、生徒とのラリーが行われました。



< 立位テニスのパフォーマンスの様子 >

大腿義足ユーザーによる「日常動作のパフォーマンス」を行いました。講師が司会として説明を加えながら、義足の基本的な構造の説明、義足の着脱、歩行から走行、階段昇降など、スライドでは表現出来ないことをユーザーが実演することで、理解度の向上に繋げることが出来ました。



< 義足ユーザー日常生活動作の様子 >

義肢装具展示

休憩時間中は「義肢装具の展示」を行いました。展示品は生徒達の後方に多数配置し、生徒に実際の義肢装具に自由に触れてもらいました。「講義」と「義足ユーザーのパフォーマンス」後の義肢装具展示でしたので、生徒の関心や質問がスタッフに寄せられました。

また、義足ユーザーが説明スタッフとしても参加して下さったため、生徒達はユーザーと間近で交流する事ができて、積極的に色々質問していました。展示品に触れる前後には、手指の消毒を行うよう生徒に呼び掛け、接触による感染予防を徹底しました。



< 義足ユーザーによる展示説明の様子 >

イベントを終えて...

杉並工業高校では2回目となる今回のプログラムは、構成と実施時間も昨年と同様としましたが、8月にパラリンピックの開催を控えていることから、講義にパラリンピックとアスリートに関する内容を多く盛り込んで話していただきました。イベント開催後に実施したアンケート結果では、全体の72%がプログラム内容に満足しているとの回答を得ました。また、障がいに対する理解は89%が、義肢装具についての理解は86%が深まったとの事でした。以上の結果から、当WGが目的としている、障がい及びパラアスリート、義肢装具士の社会的な理解を高める事ができた啓発活動であった事を示すものと思われまます。

今回で8回目となる「オリ・パラ教育推進支援プログラム」によって進路を考える大切な時期に「障がい者・パラアスリート」、その方々を支援する義肢装具士の業務を伝える事は、「障がい者理解」や「ボランティアマインドの育成」に通じる非常に大切な教育支援事業であると考えます。当協会WGでは、これからも積極的にオリンピック・パラリンピック教育推進プログラムに取り組んで参ります。

アンケート(生徒の記述感想)

- ・ありがとうございました、とても勉強になりました。
- ・面白かったです。
- ・あまりない体験だったので、1つ1つにとっても興味をもった。
- ・自分も障害をもっているのので、共感できる部分があった。
- ・自分が義足になったらどうなるのだろうか。
- ・テニスがうまかった。
- ・これからも頑張ってもらいたいです。